

I T 革命を推進するための電気通信事業における競争政策の在り方に関する意見について

武 内 宏 允

(日本コムシス株式会社 社長)

昭和60年の通信自由化から15年、競争市場はそれなりに形成されてきたが、十分とは言えない。特に世界的規模で市場が激動している現状から見て我が国の遅れが気になる。

その要因は単純ではないが、N T T の活性化が不十分であること、即ち、競争市場の形成を急ぐあまり、結果としてN T T の活力を抑制してしまったことにあると言える。

今回もN T T の在り方が主たるテーマとなることは避けられないが、世界的なI T 革命が急速に進展している現状も鑑みればこれまでのように、N T T の活動を抑制することにより、競争市場を形成するような消極的な手法は避け、N T T が存分に活動でき、しかも、競争市場もより活性化する枠組みをどのようにするかという、より積極的なスタンスで臨むことが重要と考える。なお、過渡的には非対称規制を容認する。

そのような取り組みに徹するならば、N T T がよりオープンなマインドとなり、例えば技術開発においてもグローバルスタンダードを目指した成果が十分に期待される。

これらのことは、自由な活動が出来る場を与えられたN T T ドコモの発展と移動通信市場の活性化を見れば十分予見できることである。

N T T を活性化するためには、ユニバーサルサービスに関するコンセンサスを得ることが必要である。ユニバーサルサービスだからと言って全国均一料金であるべきかどうかは別問題と考える。ユニバーサルサービスの現状は需要の少ない採算性の悪い地域の基本料金が、需要が多く採算性が良い地域より安いという矛盾があり、競争が発生する余地は全くない。

ユニバーサルサービスと言えども、コストを考慮した料金設定をすれば競争も不可能でなくなり、結果的に地域格差の少ない状況へと進展する余地がある。

競争市場を作ることが目的でなく、顧客にメリットのあるサービスを多様に提供するために競争が必須だという本来の目的を達成するための枠組みをどうするかを識者の方々に問うべきである。

〒108-0074 東京都港区高輪3-23-14

e-mail : c087886@comsys.co.jp

TEL : 03-3448-7013

FAX : 03-3447-3993